７．調査業務のまとめ（総括）

浦安市液状化対策技術調査検討委員会の（平成 23 年度）検討結果を踏まえ、平成 24 年 5 月より、地下水位低下工法、格子状改良工法および個別の対策工法について、液状化軽減効果と事業リスク等に関する検討を行い、道路など公共施設と宅地の一体的な液状化対策事業の実現可能性を検討した。

業務実施にあたり、地下水位低下工法、格子状改良工法、個別対策工法（複数の工法が含まれる）に関する解析を中心とした作業を行う３つのワーキンググループ（ＷＧ）と、これに加えて調査全体を取りまとめるにあたって技術的助言を得るための学識者委員会を設置した。

共通確認事項として浦安市の地盤特性や市街地特性を踏まえ、さらに解析を進めるための諸条件に関する調整を行った上で、各ＷＧでは担当各工法に関する検討モデルを設定し、それぞれの工法の液状化防止・軽減効果の評価や課題抽出、施工に係る諸費用の算定等の作業を実施し、事業リスクの評価を目的とした資料の作成を行った。特に、各工法に関して高度な解析手法による液状化軽減効果の定量的な把握に重点を置くものとした。

最終的に、各工法の液状化軽減効果、事業コスト、課題等を整理し、取りまとめたものが本報告書である。

今後、浦安市においては、市民と協力しながら具体的な工法選定や液状化対策事業計画の立案に向けた作業を開始することと思われる。その作業にあたって、東日本大震災により浦安市民が図らずも被った苦難より一刻も早く抜け出すため、本報告書にて取りまとめた内容が活用され、わずかでも助けとなるのであれば望外の喜びである。